

No.101

2017(平成29)年
3月1日
発行

浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
藤本使朗



何ほどの
罪や障りが

あろうとも

助くる母は

ここにまします

真信尼



第22回真宗法座「第9期連研修了式並びに組報ひかり100号発刊記念法座」

ヒダカくん・ひかりちゃんのこと その五

『御文章』のお話

永原智行

ヒダカくん 『御文章』は、書簡形式の文書が二百通余りあるよ。これには真宗の教義が平易な文章で書かれていて、もともと効果的な布教の手段となったんだ。一心に阿弥陀仏を信じれば往生が決定する信心正因、お念仏を称えるのは阿弥陀仏の御恩にむくいるためとするご恩報謝、世間にあつては国法にしたがえとする王法為本などを説かれたんだ。

ひかりちゃん その他は？

ヒダカ また、当時お寺でお経を唱えるのはお坊さんの仕事で、列席するのは武士や豪族で、庶民は何もしていなかったんだ。そういう時代に、蓮如さんは、親鸞聖人が書かれた、『教行信証』というご本の中にある「正信偈」と、ご和讃を出版して、それをともにみんなでお勤めをするようになった。みんなが正信偈とご和讃を勤めるということは画期的なこと、僧侶も門徒も武士も豪族も庶民もわけへだてなく、ともに唱えるようになったんだ。

ひかり 自分たちもお経を唱えることで、一般の人にとっては、仏教が身近になったって感じかしら。

ヒダカ そうだよ、それに、カラオケで歌うみたいなので、お経を大きな声で唱えるのは当時の人にとって楽しかったと思うよ。さらに、正信偈とご和讃を勤めたあと、『御文章』を読んだよ。

ひかり あれ、今と変わりのないじゃない。

ヒダカ そう、今のスタイルと全く同じだね。

ひかり 「御文章のお話」が始まったけれど、いまだに本題の『御文章』の内容にふれてませんねえ。

ヒダカ その通り。でも、『御文章』の意義を理解してもらうためには蓮如さんの生涯、その時代背景や、環境、人々の生きざまを知っておく必要があると思うんだ。たくさんの人々が豊かであったはずもなく、それどころか日々の食べ物に困り、飢えて死ぬことも日常で、為政者たちの勝手に戦があり、暮らしがいつも危険にさらされているそんな時代に、蓮如さんの「南無阿弥陀仏」キャンペーンが急激に広まっていったことをまず知ってほしいんだ。苦しんでいて多くの人にとって「南無阿弥陀仏」の教えは心のよりどころとなっていたんじゃないかと思うんだ。

「御文章」に「聖人（親鸞）一流の御勸化のおもむきは、信心をもつて本とせられ候ふ。」とあります。信心こそが要であると蓮如上人は仰っています。凡夫が仏様にしてくださいさるのには、信心一つ。南無阿彌陀仏は、阿彌陀さまの命そのものなのです。「まかせよ救う今ここで我をたよりとせよ」とたった六字のお念仏に届いてくださっているのです。この一声に阿彌陀さまの命が満ち満ちているのです。

たのむ

ここで、「たより」という言葉ですが、「頼む・恃む・憑む」とあります。

「頼む」の「頼」は、不確実なことを待ち受けて、依頼するという意味です。この字には、何がなんだからわからないけれどあてにするということになります。

「頼」という言葉の意味とすれば、信頼という言葉なんてあやふやに意味を持っていて、信頼しているようで、絶対的に信頼しているかといえば、先のこととはわからないでしょう。いつまでも元気でいるとは限らないし、人間先のこととはわからないということになります。

また、頼むというのは人に用います。お金を借りたりするときに使いますし、貸してくれないときなどは、「私を信頼できないの？」と、まで言ってしまう。

「恃む」という字は、自分の力をあてにするという意味があります。私にまかせろと言う意味なので、力強い意味だけれど、これもたよりにならない。

中島敦の『山月記』の冒頭に「隴西の李徴は博学才穎、天宝の末年、若くして名を虎榜に連ね、次いで江南尉に補せられたが、性、狷介、自ら恃むところすこぶる厚く、賤吏に甘んずるを潔しとしなかつた」とあります。主人公は自らの力をあてにし、人と交わらず、師に付いて切磋琢磨せず、とうとう自分の心にあった尊大な羞恥心と臆病な自尊心が、身を虎に変えてしまう話です。

自分は偉く、人の言うことなど聞いておられるかと、自分は百年に一人しかあらわれない天才であり、愚鈍な人の下で働けるかという人でした。

こんな人が自身をあてにするという意味が「恃む」という字です。

たのむは「憑む」

親鸞聖人が「たのむ」というときに用いられた字は「憑」という字です。

「憑」とは、よりかかるという意味です。親鸞聖人は帰命の意味を、このよりかかるという意味だと言われています。つまり、阿彌陀さまに寄り掛かるといことです。阿彌陀さまは、あらゆる人々を救いましょう。そのために南無阿彌陀仏という言葉となつて誰でも称えることだけです。すべての人を救いましょうという願いを立てられ、どんな人でも救われるようにと修行され、そして南無阿彌陀仏という言葉だけで救われるようにしてくださいさつたのです。それに寄り掛かるのですね。さっきの「頼」の、何がなんかわからないものをあてにするというのとはずいぶん違う。

「頼」は何がなんかわからないものにかかせる心でたのむという意味です。「恃」は私にまかせろということですが、これもあてにならないものです。「憑」は仏様に寄りかかる、大した違いですよ。

大悲を仰ぐ

南無阿彌陀仏のおいわれを聴くということは、私たちには他力としてはたらくのです。このことを簡単に申しますと次のようなお話になります。ある日曜日の朝、私が早く起きると近所の子どもがリュックサックを背に、水筒をかけていました。日頃はこんな時間子どもはまだ眠っています。

「おはよう。今朝はなんと早いね。」
「おっちゃん、お早う。今日僕はいいところへ行くんや。」
「へえー。いいところへ行くんか。いいところって何処や？」

すると、この子はひとこと、「しらん。」
「知らんところへ行くんか。（知らないところには行きたくない）」と大人の私は言いました。しかし、この子にとって何処に行くかということより、いいところに行けることが嬉しいのでしよう。

きつと昨晚に、お父さんから、「明日いいところへ連れて行くから、早く起きろよ」と言い聞かされていたのでしようね。

「歎異抄」に、親鸞におきては、ただ念仏して弥陀にたすけられまゐらすべしと、よきひと（源空）の仰せをかぶりて信ずるほかに別の子細なきなり。とありますように、この子にとって「仰せ」以外に別の子細は要らないのです。何処へ行くのやら、どうやって行くのやら。何処でご飯を食べるのやら、何処の道を通るのやら。これらはすべて親の仕事。この子には心配もはからいも要らないのです。連れて行ってくださるだけで「何処に行くんかわからんでええんかい」と言っても、

「知りたかったら、お父さんに聞け！」
心配も、はからいもすべて親の仕事。手出しは不要。この子はおまかせするしかないので。少しでも知恵を働かしたら、何処の道を通ろうか、何処でご飯を食べようか、ガソリンはいっぱいあるだろうか、天気はどうだろうか、事故は起こさないうか、明日元気に起きられるだろうか。

と、こんなこと考えたら眠られない、旅行に行く気も起らない、楽しくない。これを自力の計らいといえます。

私たちはこの子のように、「今日僕はいいところへ行きます。」と自分の計らいを入れず、『歎異抄』の「親鸞におきては、ただ念仏して弥陀にたすけられまゐらすべしと、よきひと（源空）の仰せをかぶりて信ずるほかに別の子細なきなり。」と行くべき所があるのを喜びましょう。



三人の年寄り

私の家族は、母、妹、私の三大家族です。三人とも65才以上の年寄りです。

私の母は福井県生まれです。和歌山へ嫁いできて、早や70年が過ぎました。

母は結婚後、得度をして僧侶になりました。若い頃から風邪を引いたこともなく、健康な人でした。私が病気の時は、枕元で阿彌陀さまのお話をよく聞かせてくれました。

その母も現在95歳になりました。年齢を重ねること、だんだんと足と腰が悪くなり、今は御坊の病院に入院しています。ときどき妹の子供達が母の所に来てくれ、いろいろと身の回りの世話をしてくれています。その孫達にありがとうと礼を言い、満足した顔を見せてくれます。

私の妹は結婚しましたが、実家へ帰ってきて随分と経ちました。

普段は私の法務の手助けをしてくれています。毎朝のおつとめも上手になりました。妹は足が痛いといつも言っていますが、子供達が来ると食事の支度を喜んでしております。

最後に私。子供の頃の思い出で、今も強く印象に残っているのは、福井の実家のお仏壇が大変大きかったことです。

お仏壇の後ろ側にはお坊さんの休む部屋がある家でした。法事の際は、福井別院からお坊さんが来ておつとめをしてくれました。時が経ち私は僧侶となり、父が亡くなった後は寺を守っています。

もう何年も前のことになりましたが、ある日門徒様から、「親と子だもの お参りさんせ 聞きなされ」

と、掲示板に書いてくださいと言われたことがあります。お寺のことを思っ下さるご門徒様でした。そんな日々の出来事から、仏さまの教えを伝えていくことが私の役目だと感じています。私も70歳を過ぎ、足が悪くなってきました。そんな身体でも母と妹をみて、暮らしていかなければなりません。これからも、微力ながら頑張っつ法務を続けていきたいと思ひます。(丸山)

スマートフォンからもアクセスしてね！



日高組ホームページ



お知らせ

ひかり編集委員会では、紙面を充実するため、日頃の寺院活動や読者の皆様からの投稿をお願いしています。寺院独自の法座やイベントに限らず、疑問に感じたことなどご投稿いただけますようご協力をお願いします。紙面及びホームページに掲載させていただきます。希望される方は、日高組メール hidakaso1712@gmail.com まで送信をお願いします。また「ひかり」に関するご意見ご感想など法悦クイズとともにどしどしご投稿ください。ハガキまたは、ホームページからご投稿いただけます。

法悦クイズ

念珠（ねんじゆ）の使い方正しいのはどれでしょう？ 次の1～3の中から一つ選んで番号を書いてください。

1. 合掌した両手を輪の中に納め、親指で軽く押さえる
2. 珠（たま）を擦（す）り合わせて拝む
3. 左手だけにかけて、右手を合わせる

100号の正解は、「1. 仏の救いを疑わなくなった心」でした。正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

- | | |
|-------------|-------------|
| 由良町 中崎エミコ 様 | 由良町 小林 民子 様 |
| 由良町 直川せつ代 様 | 由良町 松下伊佐子 様 |
| 由良町 岩崎 信子 様 | 御坊市 塩田 廣一 様 |
| 由良町 鈴木 玲子 様 | |

ホームページ、またはハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、紙面についてのご感想、ご意見等を明記の上、下記までお送り下さい。

〒649-1221 和歌山県日高郡 日高町志賀2988番地 妙願寺内 日高組事務所 宛

★抽選で10名の方に粗品を進呈します。

締切 平成29年5月20日(必着)

発表は次号です



「布教大会」2月4日開催 門徒総代会研修会

「布教大会」出講者は次のみなさんでした。
 大阪教区 桑原光順師
 和歌山教区 伊井智雄師
 大阪教区 藤尾真成師
 出講順 関連記事 8面日高組通信



第22回真宗法座 「連研修了式並びに組報ひかり100号発刊記念法座」

12/11に開催された真宗法座、左上から時計回りに、れんけん修了者の巡讃による正信偈のおつとめ、教務所長よりれんけん修了証授与、教区実践運動松本委員長の祝辞、相愛大学佐々木准教授による記念法座。多数のご聴聞でした。(詳細は8面日高組通信参照)



門徒心得

おつとめ

勤行「おつとめ」とは、お経を読む(あげる)ことです。
 浄土真宗における勤行は祈りではありません。また、亡き人への追善供養でもありません。
 お経はお釈迦さまの説法です。お釈迦さまは、私たちに阿彌陀さまの教えをお説き下さいました。
 勤行は、私が阿彌陀さまのご恩徳を讃え感謝する思いからおつとめをするのです。つまり仏さまへの感謝(仏恩報謝)です。
 お寺での法要、家庭での年忌法要やお逮夜参りなど、私が阿彌陀さまのご縁をいただく機会なのです。
 ちなみに、「帰命無量寿如来」が始まる「正信偈」は、お釈迦さまがお説きになったお経ではありませんが、宗祖親鸞聖人が浄土真宗のみ教えを示された讃歌で、阿彌陀さまの救いを讃える思いからお経と同様の扱いでつとめます。
 お経のおつとめは、仏縁をいただくことで、すから、本堂での法要時やご家庭でのお逮夜参りの時などにお寺さんがお参りに来られた際はご一緒に「おつとめ」しましょう。
 また、ご自分でも朝夕お仏壇でおつとめしましょう。
 (鈴木)



鐘楼が倒壊!

新年早々のことでした。去る1月15日、光専寺の鐘楼が倒壊しました。南側へ倒れ、隣接の家の屋根と壁を大きく壊してしまいました。
 真に申し訳ないことでした。

二百五十年以上前、本堂とほぼ同時期に当寺鐘楼は建立されました。梵鐘はかの戦争で軍へ供出されましたが、昭和25年、当時の門信徒様の篤い思いから、新しく据えられました。風雨にも、地震にも耐え、何度か修復を重ねながら、今日まで梵鐘としての役割を果たしてくれていました。
 この除夜会は毎年恒例の新年会のようなもので、住職、総代様、仏子様等々が飲食・歓談を楽しんでいます。
 昨年暮れから新年にかけての除夜会での鐘撞きの際、屋根を支える四本の柱の角度がおかしいというので、一〇八回の予定が54回を撞いたところで中止としました

由良町横浜光専寺



早速、参加していた総代様に、鐘楼の点検をしていただくようお願いしました。正月明けには、修復業者も決まり、どのような方法で修復するのかを検討し始めていました。
 そして、1月15日の夕刻。総代長様と業者が堂に向かって話し合いをしていたところ、突然異様な音を立て一気に崩れ落ちました。幸いにも、誰も怪我をする方がいなかったことが救いでした。
 翌週、臨時門信徒総会を開き、鐘楼を再建することが満場一致で決定しました。今後、春の定例総会でのような鐘楼にするのかが議論されます。近いうちに心落ち着く温かい音を響かせてくれることを願っています。
 (北山憲昭)



毎回15名ほどの老若男女が本堂に集結します！

毎年、御正忌報恩講(1月上旬厳修)を終えると、総代さんや役員さんが庫裡で任職と布施使さんを囲んで慰労会を行っていただきます。昨年の慰労会ではある総代さんから、「仏教寺院だから、お釈迦さまのご生涯や教えをもっと基本から学ぶ必要がある、若者のお参りも少ないし、壮年を対象にした勉強会を開催してみても？」と提案なされました。今まで任職の責務は「自分が主導しなくては」と考えてしまいがちでしたがそれを慎み、ご門徒からの提案や意見を待つ忍耐が実った瞬間でした。壮年会組織の種がようやく発芽した思いでした。

組内寺院 実践運動紹介

ご門徒の声から「大人の寺子屋」が始まる！ (志賀 妙願寺)



お寺が世代を超えて集える場に！

お酒のせいもあり、とんとん拍子で話は弾み、若手総代の一人が仏教壮年担当総代として「勉強会」の運営担当を引き受けることになりました。名付けて「大人の寺子屋」でできる男はお寺に通う」を門徒総代会が主催となり3月から年4回開催で始まりました。内容は、おつとめ、仏事作法、講義、歓談(お酒も出ます)の四部構成です。講義は第1回目は「釈尊誕生から入滅まで」を映像を基に、第2回目は「釈尊の教え」を資料を基に、第3回目は「経典解説」を映像と資料で、第4回は「浄土三部経」を資料で行いました。資料収集には30年前に龍谷大学で学んだノートやテキストが大いに役立ちました。聞き慣れない言葉だらけでご門徒さんには少し難しかったようでしたが、担当総代さんの自主的熱心な勧誘が功を奏し、20代から70代までの世代が毎回15名程度参加されています。講義終了後には、和やかな雰囲気の中で酒盛りを兼ねて歓談します。それまでの重苦しい空気が一気に晴れる瞬間ですね。このとき参加者から様々な話を聞かせていただきます。お寺の法座へのお参りに来たことがない若者も座っています。

ご門徒以外にも、寺子屋に興味を持たれ、紅一点で毎回参加してくれた20代女性も。なんと、幼少の頃から実家の九州で日曜学校に通われ、すでに帰敬式(おかみそり)も受けていられているそうです。11月に参拝した専如門主伝灯奉告法要にも寺子屋のご縁から妙願寺参拝団に加わり、一緒に参拝することができました。また「お寺は楽しい」と思っていただけのような演出も。歓談中に本堂を暗闇にし、ろうそくを灯しての音楽鑑賞は、若者にもお寺が身近に感じてもらえるようなひとときでした。以上高いようだと痛感しましたね。昨年の検証を踏まえ、今年の講義は相談の結果、もっとぶっちゃけた安易な内容にしようということになり、「やさしい仏教雑学」と題し、普段何気なく使用している言葉で仏教用語たとえば、「ありがたう」の意味などを解説を交えながら、ともに楽しく味わってゆきたいと思えます。今後はさらなる参加者増強のためにもご門徒に広く周知するようにと、1月の門徒総会時に総代長さんからも、「是非お誘い合わせご参加下さい！」と声を大にしてPRしてくれました。婦人会主催での漬物教室の開催など未来への展望を夢見つつ、「大人の寺子屋」を通じてお寺が世代を超えて楽しく集える場となるよう、総代さんやご門徒のみなさん主導で創意工夫しながら活動しようと思っております。(楠原)



堂内はすごい盛り上がり、満堂の中、別院で楽しく過ごしました。

和歌山教区少年連盟主催 ☆☆☆堂内に児童の念仏の音が響く☆☆☆ 「第28回子どもの集い～キッズサンガ～子ども報恩講」



紙ヒコーキ上手に折れたかな？ ↑

第28回子どもの集い「キッズサンガ」子ども報恩講が昨年12月10日、和歌山市の鷺森別院で開催され、教区内から170名の児童が集まり、日高組からも9名が参加しました。当日は、盛りだくさんのアトラクションが準備され、海南高校科学部の生徒による「不思議実験公演」では、自分の身体よりも大きな段ボールで作られた空気砲で、積み上げた紙コップを倒す実験などに探究心をかき立てられていました。別院館内では、わたがしや、自分の顔写真が入った缶バッジ作りなど、教区壮年会・婦人会の工夫した企画に、子どもたちは大喜び。別院に笑顔あふれる一日となりました。



レクリエーション内容

- "科学実験 バランストーンマジックウォール"
- 缶バッジ(教区仏教壮年会出店)
- 射的
- 吊りピン立てゲーム
- 皿回しLver2(教区仏教婦人会連盟出店)
- 紙ヒコーキ(教区仏教婦人会連盟出店)
- アーチェリーゲーム
- わたがし
- なわとび
- ピンポン玉入れ
- ストラックアウト

仏教壮年会連盟の出店では自分の顔写真をバッジにして作成してくれたよ →



日高町志賀の妙願寺では、大晦日の午後4時から鐘撞き大会が催され、里帰りの孫を連れてご門徒ら30名が鐘楼に集まり、何回も撞く子どもも。除夜の鐘には参加しにくい幼児などで賑わったひとときでした。

お寺の鐘を 撞こう



読者の声

※「ひかり」100号まで続けられたこと
すごいと思います。楽しみに拝見していま
す。
※門徒心得、勉強になります。これからも
教えてください。
※いつも「ひかり」読ませて頂いています。
お寺が子供の居場所になるとうれしく思
います。
※寒くなりましたが日本水仙が大引の海岸
にきれいに咲いています。
※いつも有難うございます。

日高組通信

☆行事報告

◎仏教婦人会連盟研修会
平成28年度研修会を10月27日(木)に海南市方
面で開催。貸し切りバスにて黒江浄国寺(黒江
御坊)を会員40名が訪ねて参拝、沿革史を学び、
研鑽と親睦を深めました。

◎第22回真宗法座「連研修了式並びに組報ひかり100号発刊記念法座」

日高組主催の第22回真宗法座が12月11日、由
良町里の蓮専寺で開催され、門徒、寺院関係者
80名が参加して盛大に執り行われました。

最初に正信念仏偈が連研修了者の巡讃により
勤められ、開講以来12回の第9期連続研修を修
了した29名に中岡順忍和歌山教区教務所長より
修了証が授与されました。続いて、広報誌「ひ
かり」100号発刊を記念して式典が行われ、
来賓の石上総長(代理)、中岡教務所長、松本教
区実践運動委員長らから祝辞をいただき、藤本
組長の挨拶では、「組報ひかり」を通して”念
仏の声を世界に子や孫に”伝えていきたいと訴
えられました。

このあと、相愛大学の佐々木隆晃准教授によ
る記念法話では、阿弥陀如来のご本願のいわれ
をやさしくわかりやすい言葉でお取り次ぎいた
だき、聴聞させていただきました。

◎総代会後期研修会 「布教大会」

2月4日(土)、日高町小浦の円行寺において
開催され、組内各地より45名が集まり、大阪・
和歌山教区からの若手布教使さん3名による
「布教大会」を聴聞し、ご法義をとものに味わ
いました。

◎仏教壮年会連盟総会

2月18日(土)日高町志賀の即生寺において開
催され、事業報告、会計報告、規約準則改定、
役員選出など協議しました。しばらく活動休止
だったこともあり、今後も組を挙げて壮年会活
動の活性化に取り組んでゆきます。

◎日高組実践運動僧侶研修会

2月25日(土)、日高町志賀の即生寺におい
て、「御同朋の社会をめざす運動」について
分け隔てられず、共に生きられる社会のため
に(障害者差別解消法と私たち)を題材に
研修を行いました。

☆行事計画

◎日高組実践運動組委員会

3月4日(土)午後2時から志賀即生寺にて、
28年度実践運動の評価・総括と29年度実践運
動活動計画を策定します。

◎寺族婦人会総会・報恩講

3月7日(火)日高町比井長覚寺にて28年度
総会と報恩講を勤めます。

◎日高組専如門主伝灯奉告法要団体参拝

3月12日(日)1班、由良町各地区より15
5名がバス4台で参拝します。

4月26日(水)2班、日高町4ヶ寺37名が参拝
します。

乗車場所や集合時間など詳細については後
日お手次の寺院から連絡がありますのでご確
認下さい。

◎平成28年度日高組定期組会

3月25日(土)午後2時から由良町阿戸教専
寺にて開催。日高組組会議員による28年度事
業報告、決算報告、29年度事業計画、予算等
の審議を行います。

☆褒賞

このたび、住職在職30年表彰に蓮専寺住職
岩崎法明師が、90才僧侶表彰に西教寺住職
藤田孝雄師がそれぞれ宗派から受賞されまし
た。これからも益々のご活躍を念じます。

